

平成27年9月30日

小学校6年生児童の保護者の皆様

苫小牧市立明野小学校長 谷川 充穂

平成27年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

秋風がさわやかな頃となりました。保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月21日（火）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年8月末に北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも9月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち児童が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から児童への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。昨年度から、苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行わないとの考えが示されました。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 調査の概要

(1) 実施日 平成27年4月21日（火）

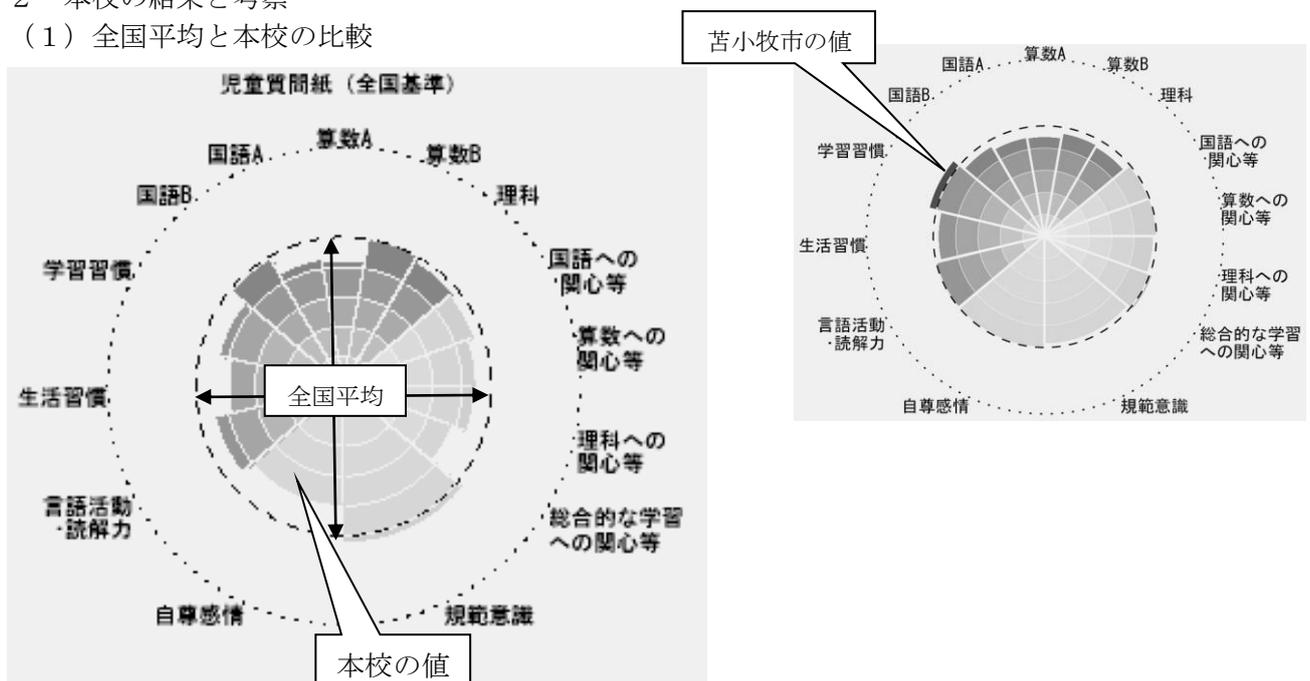
(2) 調査対象 小学校第6学年（市内全小学校で実施）

(3) 調査事項

- ① 教科に関する調査は、国語、算数及び理科の3教科について実施しました。国語、算数については、主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関するB問題が出題されました。理科については、主として「知識」及び「活用」に関する問題が一体的に出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する児童質問紙調査を実施しました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較



(2) 国語科

国語A

- ・平均正答率が全国・北海道の平均を下回っている。
- ・正答数の分布では、全国平均に比べ、上位層が薄く、中位層が厚い傾向が見られる。
- ・漢字の読みでは全国平均を上回るものもあった。
- ・漢字の書き（病院・巢など）では全国平均との差が大きく、習熟のための練習が不足していることが原因と思われる。
- ・説明する文章を書く問題では正答率が低い。

国語B

- ・平均正答率が北海道の平均を上回っている。（全国平均は下回っている）
- ・正答数の分布では、全国平均に比べ、上位層がやや厚い傾向が見られる。
- ・記事に見出しをつける問題などでは正答率が全国平均を上回った。また、全国平均を下回っている設問でも差はわずかであった。

(3) 算数科

算数A

- ・平均正答率が全国・北海道の平均を下回っている
- ・正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層が薄く下位層が厚い傾向が見られる。
- ・小数の引き算（ $6.79 - 0.8$ のように位をそろえて計算する）など、基本的な四則計算で正答率の全国平均との差が大きい。

算数B

- ・平均正答率が北海道の平均を上回っている。（全国平均は下回っている）
- ・正答数の分布では、全国平均に比べ、中位層から上位層がやや厚い傾向が見られる。

(4) 理科

- ・平均正答率が全国・北海道の平均を下回っている
- ・正答数の分布では、全国平均に比べ、上位層から中位層がやや薄い傾向が見られる。

(5) 児童質問紙

学校生活

- ・「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」では、「できる」が少なく、全国平均との差がかなり大きい。
- ・「国語が好き」は全国平均を上回り、「算数が好き」も全国平均に迫っている。

家庭生活

- ・「朝食を毎日食べている」「毎日きまった時刻に寝ている・起きている」は全国平均を下回っている。
- ・「ゲームをする時間が1日3時間以上」が本校6年生の4分の1を占めている。

3 学校の今後の取組について

- ◆国語科の学習では、「うちガク」も含め習熟のための学習に自ら取り組む姿勢を育てるようにします。
- ◆算数科の学習では、基本的な計算の確実な習熟に取り組ませます。
- ◆「うちガク」への積極的な取り組みや望ましい生活習慣が身につくよう、日常の指導や家庭学習強化週間・さわやかリズム週間への取り組みを続けます。